



おたより新聞め『あなたの元気の素は何ですか?』



陶丘工房

末石昌士



出会いと別れの春である。一月はいく、二月はにげる、というけれど今年は長く感じたのは、心が大きく右へ左へ動いたからか。ふと思うと元気になるのは、何気にそこにくつろいでいる猫の姿だったりする。一年居たクロ猫が突然いなくなったり諸行無常を思いがけなく感じた。どこかきっと元気で居てくれると思う。今居るボン、クレ、ナツ、テク、に改めて感謝する。

出会いといえば、お薦めしたい場所があります。ある方が個人で作られて、お父さんの名を取り、かずま園と命名された場所です。そこに、あいの鐘(我逢人の鐘)があります。カップルや家族で行かれて長崎を見ながら、その鐘を鳴らすのはお薦めです。心やさしい方は誰でも歓迎されるでしょう。ぜひ園長さんを探して声をかけて下さい。きっと満面の笑みで迎えてくれると思います。

※我逢人 人との尊い出逢いの意味(禅の言葉)

帰らぬを呼ぶ名の闇や恋の猫 風人

工房樹機

井上由香里

私の元気の素
すべてを気のせいと思い込む事
例えは
うむ?今日はなんだか頭が重い?
気のせいよね!
今日生きてる事に感謝して楽しむ。
後はやっぱり家族の笑顔かな。



鬼泡焼光窯

野崎秀登

① 元気づけられること...

読書です。ちょっと答えになってないかも知れませんが、一人の人間が体験できるのはただ一度の人生だけですが、本を読むことによって多くのことを(疑似)経験することができます。多くの思いや感じ方を共有することもできます。それはとてもエキサイティングなことです。

② 小学校の時は父が買っててくれる月刊「少年」という漫画本が唯一の読書?のための書籍で、次の号が発売されるまでの一ヶ月間隔から隅まで何度も読み返していました。

小学校卒業を機に一念発起。中学では一切漫画は読まないと決意しそれを貫きました。しかし、読書に親しむこともなくただ当たり的な生活をしていたのですが、3年の春、国語の教科書に載っていた芥川龍之介の短編に触れて、彼の全作品を読みました。今でもいくつかの作品の印象が深く残っています。その後高校では受験勉強に没入し、自分のための読書からは永らく離れていました。年月は流れやがて人生の曲がり角も過ぎ、自分が過ごしてきた時間は何だったのか?なんてことを考えるようになりました。そんな時もう一度手にした本は多くの安らぎや感激や絶望など、経験したことがなかったことや、もっとしっかり立ち向かわなければならなかったこと、改めて後悔してしまうこと等を教えてくれます。あらためて、残りの人生を多面的に、重層的に経験することが出来るのではないかと思っています。



陶房スイ

井上知江



6月に娘が生まれました。

できることが増え、日々表情が豊かになる娘を見て、毎日楽しく過ごしています。お散歩に出掛けることも多くなりました。車で近くの十万山に登ることも。

展望台からはループ橋をはじめ、天草市街地、その奥に広がる海や島々を見ることができますよ。

今年のうつわは、色数も種類も増えております。

どうぞお楽しみにいらしてください。

元気のもと:お笑い

水の平焼

岡部祐一



仕事中のBGMは某国営放送のAMラジオを聴いている事が多いです。昼間は国会中継だったり大相撲中継だったり、夜はラジオ深夜便かな。時折、おおっ!という楽曲に出会える事もったり…かまやつひろしの「ゴロワーズを吸ったことがあるかい」これはメッチャかっこいい!あと、左とん平「とん平のヘイ・ユウ・ブルース」とか藤波辰巳「マッチョ・ドラゴン」とか、まあこのへんはどっちかというと"迷曲"ですかね…

最近だと、ネットラジオだったら音楽のジャンルや年代を選んで聴いたりも出来ますね。80年代洋楽だと、ポリスとかティアーズ・フォー・フィアーズ、ザ・スタイル・カウンシル、ホール&オーツ…挙げればキリがないですが、いちばん多感な頃にリアルタイムで聴いていた音楽を聴き直すと、当時のいろんな事を思い出してなんかこう元気を取り戻せたりしますね。

私の元気の素は、やっぱ音楽かな。某ショップのキャッチコピーではないですが、"No music, No life"ってな感じです。



山の口焼

辻口康夫



今年の初めにおみくじを引いたら、「新しい事にチャレンジをすれば願いは叶う。」とありました。何か一つでも新しいことを、と考えるのですが、なかなか思い浮かばないものですね。それでも新しいモノ造りには、日々挑戦していきたいです…

今回も山の口食堂では、期間限定メニューで『キーマカレーのセット』をご用意してお待ちしております。あと元気の源はもちろんキーマカレーですね。

【山の口食堂 ランチタイム】11:30~14:00



ラジオと音楽

いつものルーティンの中で、割とラジオや音楽を聴きながら生活しています。仕事中、運転中、ご飯を食べる時、ゆっくりする時。状況は色々ですが、自分の気分や体調に合わせて聴き分けています。なんだか病気の症状に合わせて処方するお薬みたいです。

これが聴きたいと自分から探しにいくのも良いですが、ふとしたタイミングでラジオの向こう側から流れてくると、ものすごく心に刺さる時があります。車の免許を取り立てる夜に父の軽トラックを借りてもぎね海水浴場辺りをドライブしていた時にラジオから「ルージュの伝言」が鳴りだした時、粗悪なスピーカーからノイズ混じりで流れるその曲は自分が聞いてきた「ルージュの伝言」の中で一番記憶に残るものでした。

The fish man's 「melody」という曲の中に「音楽はマジックを呼ぶ」という歌詞がありますが、あると思います。

それではこのご時世に一曲、Sly and the family stoneで「que sera sera」張り切って行ってみよう

